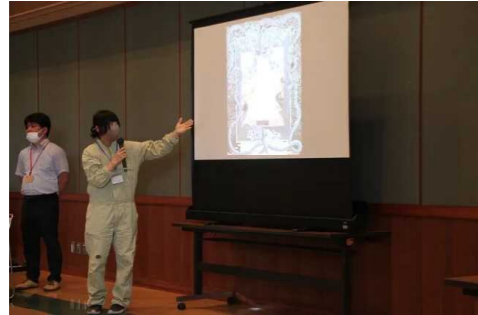


「創造力」を育成

校長 菊地 裕幸

熱中症警戒アラートが連発し、本校の教育活動においても授業や部活動を一部制限せざるを得なかった今年の夏。季節は移り変わり、最近はずっと涼しく過ごしやすくなりました。4月に新年度がスタートしてから早半年が経過し、令和5年度の教育活動も折り返しを迎えます。これまで多くの教育活動に対し、皆様からの御理解と御協力をいただき深く感謝申し上げます。

さて、去る8月23日(水)から3日間、本校が当番校で開催された高文連道北支部美術展・研究大会(於



美深町文化会館 COM100)に、全校生徒の約3分の2に当たる71名が参加しました。美術部員と工芸部員からそれぞれ平面作品が41点、立体作品が29点、映像作品が1点を出品し、平面作品が11点の全道入選と11点の佳作、立体作品が8点の全道入選と5の点佳作、映像作品が1点の全道入選というすばらしい結果を残すことができ、本校生徒の創作レベルの高さをあらためて感じたところです。入選作品については、10月4日(水)から函館市で開催される全道大会に出品されます。全国高等学校総合文化祭に出品できる作品力であることを大きく期待しております。

また、9月13日(水)から3日間、2年生はデザインスクールとして高大連携事業に協定している東海大学国際文化学部での学習("かぶりもの"の制作)や旭川市にある家具メーカーのカンディハウスでの工場見学、旭川デザインセンターでの家具の数々を見学し、これまでの学びと合わせ、知識や技術をさらに深めることができました。

先行き不透明な「予測困難な時代」や社会の在り方が劇的に変わる「Society 5.0時代」の到来とされる今、この時代を生き抜くために欠かせないのが「創造力」だと言われています。それは、AIの発展や、高度情報化、DX化などにより、社会の在り方そのものが大きく変化し、過去の常識や既存の知識が通用し

ないことが多くなっているためです。未知の課題に対し、自分なりの方法で新しい解決策を考え、実行し、価値を生み出していく、この「創造力」こそがモノをいいます。「創造力」を兼ね備えた人間であることこそが、私たちが生きていく社会に求められる資質・能力と言えます。本校の学校教育目標は「創造力」の育成を目指しております。ぜひ生徒たちには、教育活動における創作活動を通し「創造力」をさらに磨き上げ、一人一人が自らの可能性を最大限に発揮し、社会でよりよくたくましく生きるために必要な力を身に付けて欲しいと思います。

終わりになりますが、現在、3年生は卒業制作に取り組んでいるとともに、進路実現に向けての活動が最盛期です。早くも就職内定や合格内定を得た生徒もおりますが、多くはこれからが本番。希望する進路決定ができることを強く願っております。1、2年生はその準備を怠ることの無いよう…。



「前期終了」

教務部長 杉浦 誠 耶

コロナが収束し、コロナ禍以前の行事や活動が少しずつ復活しています。多くの行事に参加し、楽しみながらも成長する生徒の姿を見ることができてとてもうれしく思っています。

コロナ以前の行事を体験していませんが、学

校を盛り上げるべく試行錯誤しながらも3年生が中心となり運営や盛り上げに貢献してくれました。そんな3年生も生徒会や部活動を引退し、進路実現のために本格的に取り組んでいます。放課後も遅くまで残り、自身の進路に向き合いながら学習も怠ることなく真剣に取り組む姿は後輩のよい手本となっています。

寂しさと不安が残りますが、先輩の意志を受け継ぎ、「憧れの先輩のように振舞えるようになりたい」などやる気に満ちた1・2年生の声も聞こえています。新しい時代の風を音威子府に入れてほしいですね。また、後期からは学習も難しくなり、テストも増えます。何事にも全力で取り組み、成長できる人間になれるよう日々の生活を有意義に過ごしてください。

「他者と自分」

生徒指導部長 近江 建 心

新年度が始まり、1年の折り返しの時期です。これまでの自分自身の学校・寮生活を振り返って、みなさんはどのように受け止めていますか?成長を実感できているのでしょうか。

さて、話は変わりますが、人間が一生のうちに出会う人は大体3000人程度といわれています。「意外と多いな」と思う人もいれば、「そんなものか」と思う人もいるでしょう。私たち人間は、「他者」との関わりの中で「自分」が形成されていく生き物です。結局のところ、人間は誰と一緒に同じ時間を過ごしたか、それが人生のすべてなのかもしれません。「縁を大切に」と昔から言われるのもそのためでしょう。

それを踏まえ、みなさんは今まで「他者」とどのように関わり「自分」を形成してきましたか?そして、これからどのように関わり「自分」を形成していきますか?「他者」なくして「自分」は存在し得ません。残念ながら一人で生きていくにはあまりに辛い社会になりつつあります。だからこそ、「おと高での縁を大切に」、「他者」を思いやり、ともに成長できる関係を築いてほしいのです。

これまでの出会い、これからの出会いを大切に、後期も成長していきましょう。

「進路実現に向けて」

進路指導部長 石川 朋 美

今年も3年生は9月から公務員試験をスタートに、民間就職、専門・大学...と選考試験が始まりました。受験生は書類作成や面接練習、受験勉強などやらなくてはならないことが山積みで、緊張感が解けない毎日です。

現在の新入試では「高校生活で頑張った成果」や「社会と今の自分との関わり方」について問われています。1、2年生はまだまだ先だと思っている人も多いかもしれませんが、今しか活

動できる時にはないと思ってください。そして長期休みには保護者と進路について話を進めてください。自分の気持ちを言葉にし、態度で表し、保護者の思いも傾聴し進路活動を早期から行っていくことが大切です。

最後になりますが3年生の皆さんへ。受験へのスタートは一緒でも皆揃ってゴールはできません。しかし、周りには一緒に頑張っている仲間がいます。支え応援してくれる保護者や教職員がいます。最後まで全力で走り抜きましょう。

●おと高 Story

◀ 2学年デザインスクール ▶

今年も2泊3日の日程でデザインスクールを実施することができました。初日はカンディハウスとデザインセンターの見学を行い、日本有数の家具の産地である旭川の家具の歴史や技術について学びました。また、デザインセンターでは各企業の作品を鑑賞しデザインや使い心地を実際に触れて体験することができました。家具だけではなく作品に合わせた展示方法なども学ぶことが多く有意義な時間を過ごしました。



2日目からは東海大学札幌キャンパスにて名作椅子の鑑賞とデザインに係わる授業を受けました。普段は触れることができない名作椅子に実際に座るといった体験はよい経験となったことと思います。デザインの授業ではペアを組み相手の話を聞き、相手のことを考えた制作を行いました。他者を思いまた限られた時間の中での制作ということで生徒は大変苦しんでいましたが限られた時間であったからこそ多くのものを吸収し、デザインや制作の難しさ、デザインするために必要なコミュニケーションについて学ぶことができました。



最後の発表の際にかぶっていたカブリモノはみんなに似合っていました。作る側が相手の新たな面を発見できただけでなく、作ってもらった側もこのカブリモノの制作で自分では見ることのできない新たな一面に気づくことができたのではないのでしょうか。

短い日程ではありましたがこの経験がみんなの今後の制作の糧となることを担任として願っています。